

# 沖縄県人に対するイメージの特性と構造<sup>\*</sup>

国 吉 和 子

- |        |          |
|--------|----------|
| 1. 目 的 | 3. 結果と考察 |
| 2. 方 法 | 4. 要 約   |

## 1 目 的

本研究は、県民性に関する一研究として各出身県人に対するイメージの特性と構造、および県人間の距離意識の側面を捉えるために企画された調査研究の一部である。ここでは、「沖縄県人に対するイメージ調査結果の分析」に焦点をしぼり、対人認知の側面から沖縄県人の行動様式の特質をみていくことにする。

沖縄県は歴史や社会、文化のあらゆる面において、他の都道府県とは異なった独自性を有している。したがって、そのような状況のなかに生まれ、生活を営んできた沖縄県の人々に対する県内外の人々の見方や対応の仕方には特異な側面が窺われるであろうことが考えられる。

今回の調査では、沖縄県を含めた全国の大学生を対象として、沖縄県人に対して抱いている全体的なイメージの特徴とその因子構造を明らかにしようとする。とくに、沖縄県に生まれ育った人々と他の都道府県の人々との間には対沖縄県人イメージの構造的および量的差異がみとめられるのか否か、もし両者間にそのような差異がみとめられるとすれば、両者はとくにどのような側面でどのような違いを見せているのかを、沖縄県出身者の調査結果と県外出身者のそれとを相互に比較しながら考察を進めていくことにする。さらに、それを、沖縄県に類似する鹿児島県の人々に対するイメージ調査結果とも比較・検討を行なうことによって、沖縄県人に対するイメージの特性や構造を浮き彫りにすることにしたい。

---

\* ・本研究の一部は1978年沖縄心理学会第1回大会で既に発表したものである。  
・本研究の調査資料の整理は、京都大学大型計算機センターを利用して行なった。

## 2 方 法

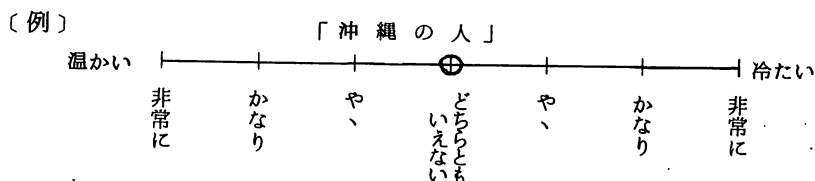
- 1) 対象：大学1年生1018人(男627人,女401人)。そのうち、沖縄県出身者が86人、県外出身者で沖縄県に居住する者は45人である。本調査における出身地別被調査数の内訳は表1の通りである。

表1 本調査における出身県及び出身地方別被調査者数の内訳

出身県及び出身地方	被調査者数	出身県及び出身地方	被調査者数
宮 城	72	大 阪	94
東 北 (宮城除く)	82	関 西 (大阪, 京都除く)	64
東 京	103	中 国	51
関 東 (東京除く)	64	四 国	32
北 陸	30	九 州 (鹿児島, 沖縄除く)	90
中 部	72	鹿 児 島	93
京 都	95	沖 縄	86

- 2) 調査の時期と場所：1976年12月から1977年1月にかけて、琉球大学、鹿児島大学、京都大学、京都教育大学、東京都立大学、明星大学、東北大学、宮城女子学院大学において調査を実施した。但し、琉球大学で得た資料の一部は1977年5月末収集したものである。
- 3) 調査項目：SDのスケールとして20個の形容詞対を使用した。これらの形容詞対はオズグッドら(Osgood, et al.; 1957)の研究や田中ら(1965)の研究、その他従来の研究結果等を参考にして、本研究の目的に妥当と思われるものを評価因子(E)5個、活動因子(A)5個、力量因子(P)5個、その他のもの5個の計20個を選定した。
- 4) 調査方法：被調査者(Ss)は、「沖縄の人」や、「鹿児島の人」、「東京の人」、「大阪の人」、「あなたの出身県の人」等の5都府県人それぞれについてSsのもつイメージを20個の形容詞対の尺度で評定させた。具体的には、

下記に示されるように、例えば、「沖縄の人」に対しては形容詞対の7段階の尺度上（例、非常に温かい—非常に冷たい）で最も適当と感じられる個所に○印をつけさせる仕組みになっている。



本報告では、上記の5都府県人についてのイメージ調査結果のうち、東京や大阪の人に対するイメージ結果は分析の対象に含まれていない。

5) 結果の処理：Ssの各都府県人についての項目毎の7段階評定を1点から7点までの点数に換算し、それを基にして各統計量を算出した。

### 3 結果と考察

#### 1) 対沖縄県人イメージの因子構造

沖縄県人に対する20個のイメージ項目それぞれにおけるSsの反応結果を主因子法により因子分析をし、ついで、ヴァリマックス法により直交回転を行なった。その結果は表2の通りである。抽出された4因子を±500の負荷量を基準にして、全集団（1028人）を通しての沖縄県人に対するイメージの構造を総括的に分析する。

まず、第1因子にかなり高く負荷する項目は「近い—遠い」や、「親しみ易い—親しみ難い」、「良い—悪い」、「好きな—嫌いな」等である。これらの項目は沖縄県人の接近性の側面を評価するためのものと考えられ、この因子は「親近性因子」として解釈することができよう。

第2因子でとくに目につくのは「勤勉な—怠惰な」の項目で、それが最も高い負荷量を持っている。そして、「粘り強い—くじけ易い」や「強い—弱い」等の項目がついで高い負荷を示している。その他、「独立的—依存的」の項目

表2 「沖縄県人に対するイメージ」因子分析結果(回転後)

(全国群 N = 1028)

尺度 \ 因子	I	II	III	IV
1. 近い ———— 遠い	<b>.622</b>	-.256	.136	-.016
2. 親しみ易い ——— 親しみ難い	<b>.811</b>	-.096	.239	.101
3. 良い ———— 悪い	<b>.650</b>	.227	.202	-.132
4. 積極的 ———— 消極的	-.147	.231	.297	.483
5. 好きな ———— 嫌いな	<b>.717</b>	.129	.213	-.07†
6. リラックスする — 緊張する	.358	-.141	.379	-.021
7. 複雑な ———— 単純な	-.129	.267	-.471	.194
8. 独立的 ———— 依存的	-.054	<b>.549</b>	-.112	.292
9. 明るい ———— 暗い	.179	-.059	<b>.713</b>	.031
10. やわらかい ———— かたい	.296	-.049	.389	-.025
11. 情に厚い ———— 薄情な	.433	.204	.430	-.303
12. 粘り強い ———— くじけ易い	-.026	<b>.693</b>	-.027	-.113
13. 勤勉な ———— 怠惰な	.062	<b>.729</b>	-.047	.038
14. 強い ———— 弱い	.049	<b>.676</b>	.040	.058
15. 速い ———— 遅い	-.006	.253	-.010	.471
16. 開放的 ———— 閉鎖的	.222	.046	<b>.532</b>	.203
17. 温かい ———— 冷たい	.443	.119	<b>.501</b>	-.278
18. 理論的 ———— 感情的	-.055	.004	-.111	<b>.525</b>
19. 新しい ———— 古い	.029	-.060	.021	<b>.542</b>
20. 協力的 ———— 競争的	.341	.174	.310	-.363
寄 与 率	48.8	26.1	15.7	9.3
固 有 率	4255	2277	1367	.814

〔注〕 数字の太字はその因子での高い因子負荷量を表わす。

も含まれる。この因子は「タフネス因子」とよぶことができよう。これは、沖縄県人の力量的側面を評価するものであるといえる。

また、第3因子は、項目「明るいー暗い」や「開放的ー閉鎖的」、「温かいー冷たい」等に高く負荷している。なかでも、「明るいー暗い」に最も高い負荷量がみられる。これらは、沖縄県人の情意的側面を評価するもので、「明朗性」に関する因子と考えられよう。

さらに、第4因子に高く負荷する項目として、「理論的ー感情的」や「新しいー古い」等があげられる。これは「近代性」に関する因子と名付けることができよう。この因子は沖縄県人のモダンな側面を評価するものである。

ここで、全被調査者（以下G○と記す）のなかから沖縄県出身者（O○と記す）と沖縄県居住者（R○と記す）の2群をとり出して群別の因子分析をし（表3、表4）、これら3群の相互比較を行なうと、群間にイメージの構造の違いが多少みとめられる。

O○群においては、第1因子は「親しみ易いー親しみ難い」、「好きなー嫌いな」、「情に厚いー薄情な」、「温かいー冷たい」等の項目に高く負荷し、「温情性」に関する因子と解釈できる。第2因子は「独立的ー依存的」、「粘り強いーくじけ易い」、「勤勉なー怠惰な」、「強いー弱い」に高い負荷量を持ち、「タフネス因子」を構成している。また、第3因子は「複雑なー単純な」（逆方向）、「明るいー暗い」に高く負荷し、「明朗性」に関する因子である。第4因子は「理論的ー感情的」、「新しいー古い」等に高い負荷量がみられ、「近代性因子」と命名されよう。このように、O○群のイメージの構造は、第2、第3、第4の因子ではG○群のそれとほぼ共通しているが、第1因子では違いを見せている。

R○群の場合は、第1因子には「近いー遠い」、「親しみ易いー親しみ難い」、「良いー悪い」、「好きなー嫌いな」等が、第2因子には「複雑なー単純な」、「勤勉なー怠惰な」、「速いー遅い」、「新しいー古い」等が高く負荷している。また、第3因子の中には、「リラックスするー緊張する」、「明るいー暗い」、「情に厚いー薄情な」、「開放的ー閉鎖的」、「温かいー冷たい」等の項目が含まれ、さらに第4因子には、「独立的ー依存的」、「粘り強いーくじ

表3 「沖縄県人に対するイメージ」因子分析結果（回転後）  
（沖縄県出身者群 No = 86）

尺 度	因 子	I	II	III	IV	V	VI
1. 近い ————— 遠い		.192	.012	-.077	.004	<b>.765</b>	-.108
2. 親しみ易い ——— 親しみ難い		<b>.607</b>	.045	.007	-.084	<b>.524</b>	.115
3. 良い ————— 悪い		<b>.638</b>	.037	-.060	-.295	.106	.101
4. 積極的 ————— 消極的		-.293	.294	.108	.390	.103	.118
5. 好きな ————— 嫌いな		<b>.623</b>	.177	-.002	-.439	.359	.203
6. リラックスする ——— 緊張する		.191	.098	.149	-.167	.419	-.012
7. 複雑な ————— 単純な		-.159	.144	<b>-.604</b>	.081	.106	.014
8. 独立的 ————— 依存的		-.110	<b>.731</b>	-.067	.294	.067	-.197
9. 明るい ————— 暗い		.111	.144	<b>.611</b>	-.071	.127	.173
10. やわらかい ——— かたい		.486	-.144	.144	.044	.103	.348
11. 情に厚い ————— 薄情な		<b>.746</b>	.024	.282	-.008	.165	-.066
12. 粘り強い ————— くじけ易い		-.041	<b>.835</b>	.046	.006	.047	.075
13. 勤勉な ————— 怠惰な		-.000	<b>.578</b>	.003	.105	.190	.367
14. 強い ————— 弱い		.195	<b>.709</b>	-.005	.037	-.030	-.049
15. 速い ————— 遅い		-.291	.363	-.061	.137	-.061	<b>.510</b>
16. 開放的 ————— 閉鎖的		.168	-.059	.090	-.005	-.069	.466
17. 温かい ————— 冷たい		<b>.823</b>	-.033	.279	.013	.132	-.042
18. 理論的 ————— 感情的		-.188	.088	-.294	<b>.615</b>	-.076	.181
19. 新しい ————— 古い		.046	.371	-.103	<b>.603</b>	-.181	-.078
20. 協力的 ————— 競争的		.497	.049	.402	-.316	.117	-.039
寄 与 率		42.0	26.2	9.9	8.2	7.9	5.8
固 有 率		4548	2837	1071	.888	.854	.624

〔注〕 数字の太字はその因子での高い因子負荷量を表わす。

表4 「沖縄県人に対するイメージ」因子分析結果（回転後）

（沖縄県居住者群  $N_R = 45$ ）

尺度	因子						
		I	II	III	IV	V	VI
1. 近い ———— 遠い		<b>.583</b>	.190	.103	-.184	.037	.262
2. 親しみ易い ———— 親しみ難い		<b>.726</b>	.112	.319	.083	.154	.278
3. 良い ———— 悪い		<b>.817</b>	.089	.238	.315	.085	-.082
4. 積極的 ———— 消極的		.189	.160	.497	-.140	-.151	.094
5. 好きな ———— 嫌いな		<b>.834</b>	-.027	.126	.111	.129	-.212
6. リラックスする ———— 緊張する		.379	-.004	<b>.601</b>	-.096	.072	.148
7. 複雑な ———— 単純な		.007	<b>.565</b>	-.174	.328	-.121	-.174
8. 独立的 ———— 依存的		.076	.004	-.075	<b>.652</b>	-.156	.072
9. 明るい ———— 暗い		.153	-.201	<b>.769</b>	.053	.110	.187
10. やわらかい ———— かたい		.433	-.069	.082	.204	.496	.208
11. 情に厚い ———— 薄情な		.338	.197	<b>.651</b>	-.299	.166	-.237
12. 粘り強い ———— くじけ易い		.113	.170	-.065	<b>.758</b>	.207	-.084
13. 勤勉な ———— 怠惰な		.229	<b>.555</b>	.152	<b>.588</b>	.032	.131
14. 強い ———— 弱い		-.056	.102	-.042	<b>.581</b>	.351	.022
15. 速い ———— 遅い		.096	<b>.752</b>	.137	.088	.088	.049
16. 開放的 ———— 閉鎖的		-.182	-.095	<b>.627</b>	.192	.315	.215
17. 温かい ———— 冷たい		.331	.284	<b>.563</b>	-.065	.147	-.320
18. 理論的 ———— 感情的		.085	.176	.171	.036	-.021	<b>.658</b>
19. 新しい ———— 古い		.039	<b>.863</b>	.097	.001	.047	.306
20. 協力的 ———— 競争的		.254	.072	.225	.048	<b>.851</b>	-.134
寄 与 率		.406	.209	.140	.103	.83	.60
固 有 値		5.156	2.658	1.771	1.304	1.049	.763

〔注〕 数字の太字はその因子での高い因子負荷量を表わす。

け易い」、「勤勉な一怠惰な」、「強い—弱い」等の項目に高い負荷量がみられる。第1因子と第3因子はGo群の場合とはほぼ類似していて、それぞれ「親近性因子」、「明朗性因子」として命名可能である。第2と第4因子はそれぞれ「近代性」と「タフネス」に関する因子と考えられ、Go群の場合とは因子としてまとめられる内容はほぼ似ているが、抽出される順序が異なっている。

以上のように群間差違がみられるが、そのなかでとりわけ第1因子における違いは注目に値する。Oo群においては、親近性と温情性に関するものが同一の第1因子の中に含まれている。±.400の負荷量基準で判断すると、Go群の場合もOo群と同じ傾向をもつが、因子の内容が多少異なる。すなわちOo群においては温情性に関する項目に大きく負荷しているのに対し、Go群においては、親近性に関する項目に高い負荷量がみられる。他方、Ro群においては、親近性に関するものと温情性に関するものとは独立したものになっている。そして、温情性に関するものはむしろ明朗性因子と結びついている（第3因子）。これらのことは対人認知において、沖縄県人が「情に厚い」とか「温かい」等の情緒的側面を重視する傾向をもち、一方、他の都府県人は「親しみ易い」とか、「好きな」等の対人的接近性の側面を重視する傾向にあることを示唆していると言えよう。

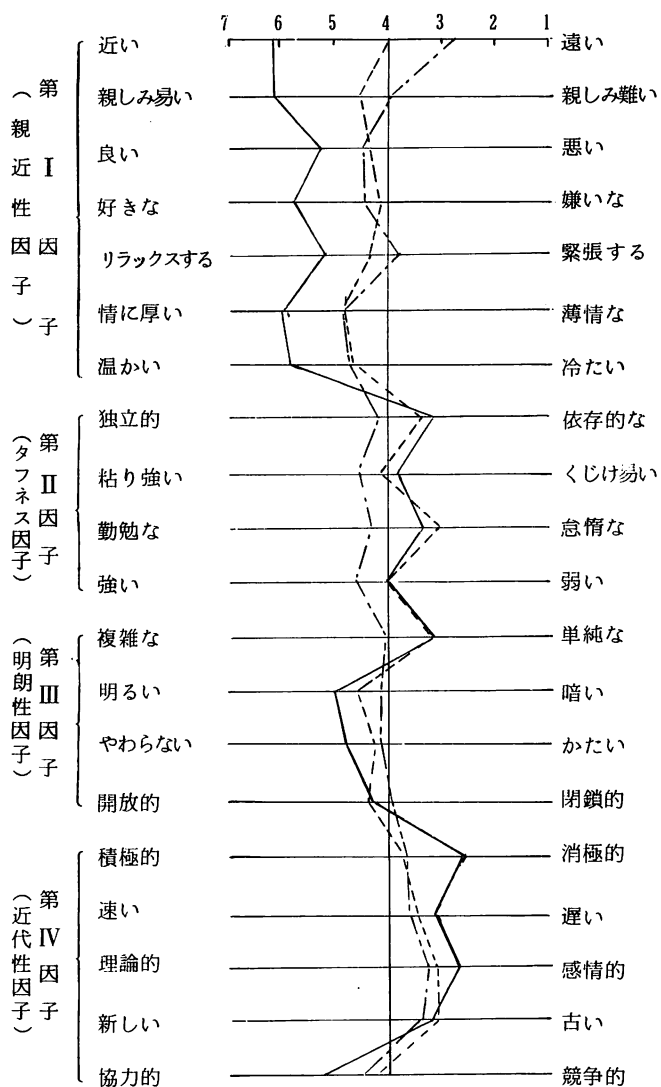
## 2) 対沖縄県人イメージの量的比較

沖縄県人に対するイメージを浮き彫りにするために、図1には表2を基にして20個の項目を因子別に配置換えをし、Oo群や、Ro群、Go群それぞれのイメージのプロフィールを描いてある。また、Ssの出身地別因子毎のイメージ量の平均値を算出すると表5のようになる。

図1や表5から、沖縄県人に対するイメージとしては、全体的（Go群）にみてどの因子においても「どちらとも言えない」の中性的な評定に近いが、中性点（4点）を境にして因子毎の傾きの方向をみると、第1因子の親近性や、



図1 沖縄県人に対するイメージ  
(プロフィール)



————— 沖縄県出身者 (Oo)  
 - - - - - 沖縄県居住者 (Ro)  
 . . . . . 全 国 (Go)

第2因子のタフネス、第3因子の明朗性ではやや積極的な評定の方へ、一方、第4因子の近代性の面では消極的な評定の方へ傾いていることがわかる。この傾向を Ss の出身地別因子毎の平均値（表5）でみていくと、第1因子の場

表5 沖縄県人に対する Ss の出身地別因子毎の平均値

（表2を基にした値）

出身地	因子		I	II	III	IV
	N					
沖縄	86		5.72	3.66	4.90	3.44
沖縄居住者 （県外出身者）	45		4.42	3.70	4.34	3.60
鹿児島	93		4.63	4.24	4.39	3.74
九州 （鹿児島除く）	90		4.23	4.29	4.29	3.66
四国	32		3.89	4.24	4.15	3.78
中国	51		3.92	4.61	4.19	3.89
関西 （大阪、京都除く）	64		3.94	4.76	4.20	3.65
大阪	94		3.93	4.58	4.19	3.79
京都	95		4.00	4.80	4.19	3.74
中部	72		3.98	4.63	4.20	3.86
北陸	30		3.86	4.08	4.32	3.71
東京	103		3.97	4.70	4.25	3.79
関東 （東京除く）	64		3.95	4.37	4.23	3.96
宮城	72		3.65	4.54	4.00	3.64
東北 （宮城除く）	82		3.99	4.53	4.22	3.76
全国	1028		4.17	4.45	4.28	3.74

合を除き、他の3因子ではどのSs群もほぼ同傾向をもっていることがみとめられる。第1因子の面では、沖縄県に近距離にある鹿児島県人を含めた九州群が積極的な評定の傾向を見せているのに対し、他の都府県出身者群はわずかながら消極的な評定の方向へ移っていることがみられる。

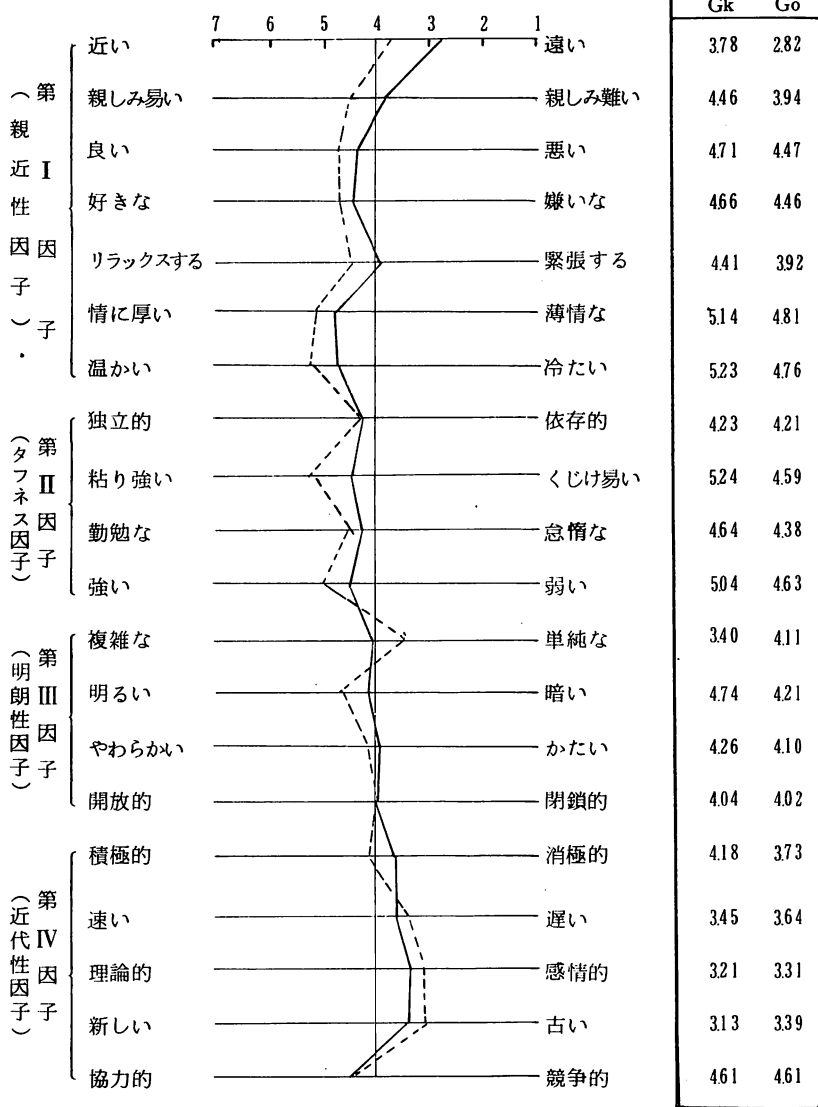
Go群、Ro群、Oo群の群相互の比較検討を行なうと、第1因子の親近性の面ではOo群の方がGo群やRo群の方よりかなり高い評定をしていることが目につく。第2因子のタフネスの面では、Oo群とRo群はほぼ同傾向を示し、しかも両群ともGo群の方より消極的な評定に傾斜している。また、第3因子の明朗性の面では、Oo群の評定は他の2群より高く、さらに、第4因子の近代性の面では、Oo群が3群の中で最も低い値を示している。

沖縄県人に対するイメージを沖縄の類似県としての鹿児島県人に対するイメージと比較しながら考察を進めていくと、両者には因子毎の多少の量的違いがみられるが、全体(Go, Gk)としてはほぼ同じような傾向を見せている(図2)。しかし、これを全国群、居住者群、出身者群に分けて、これら3群の沖縄県人と鹿児島県人に対するイメージ比較を行なうと、両者間には二つの点で特徴的な差異がみとめられる(図1, 図3)。

その1つは、第2因子のタフネスの面で鹿児島県人に対する評定が全国群(Gk)、居住群(Rk)、鹿児島県出身者群(Kk)のいずれも共通して積極的なイメージを示しているのに対し、沖縄県人に対するイメージはGo群の方がやや積極的な評定の方向に傾いているが、Oo群やRo群はともに消極的な位置づけをしていることである。

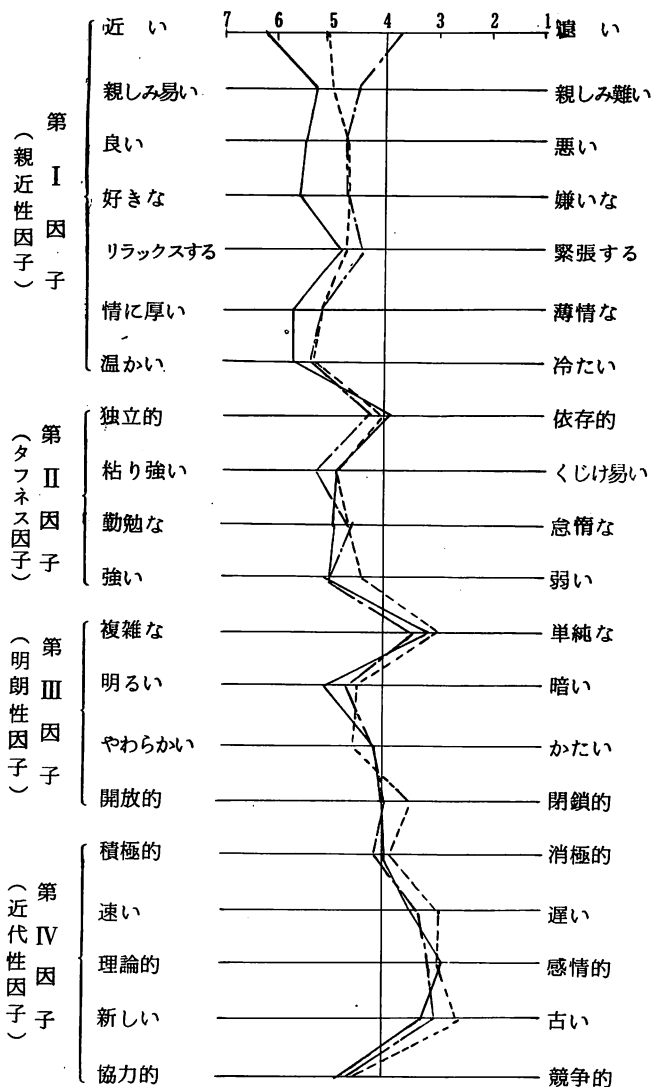
また、図4にみる「沖縄県人」や「鹿児島県人」や「宮城県人」に対する各々の出身県人の抱くイメージのプロフィール等とを比較してみても、とくに第2因子のタフネスの面での沖縄県人の消極的な評定は宮城県人や鹿児島県人等の評定と対照的である。このことは、第2因子の面で沖縄県人と県外者との間に行動様式の違いがあることを示唆している。

図2 沖縄県人および鹿児島県人に対するイメージ  
(プロフィール)



————— 沖縄県人に対するイメージ (Go)  
 - - - - - 鹿児島県人に対するイメージ (Gk)

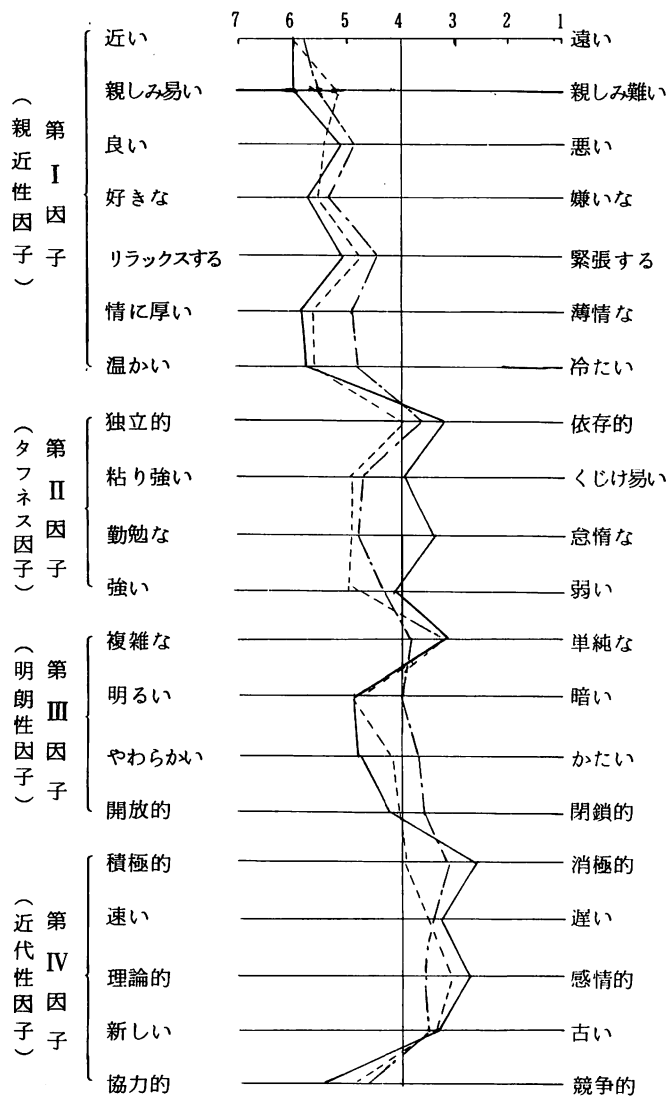
図3 鹿児島県人に対するイメージ  
(プロフィール)



項目毎の平均値		
Kk	Rk	Gk
6.19	5.02	3.78
5.27	4.95	4.46
5.45	4.73	4.71
5.53	4.62	4.66
4.80	4.72	4.41
5.69	5.07	5.14
5.70	5.35	5.23
3.95	4.03	4.23
4.91	4.82	5.24
4.94	4.65	4.64
5.02	4.48	5.04
3.14	3.00	3.40
5.04	4.57	4.74
4.24	4.53	4.26
4.10	3.57	4.04
4.02	3.88	4.18
3.53	3.08	3.45
3.02	3.03	3.21
3.34	2.73	3.13
4.89	4.58	4.61

—— 鹿児島県出身者 (Kk)  
 - - - 鹿児島県居住者 (Rk)  
 . . . 全 国 (Gk)

図4 各出身県人に対するイメージ  
(プロフィール)



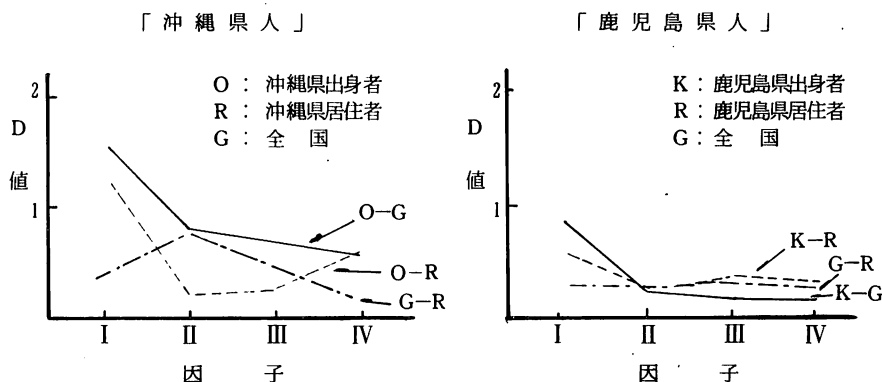
項目毎の平均値			
	O	K	M
近い	6.15	6.19	5.90
親しみ易い	6.05	5.27	5.55
良い	5.22	5.45	4.92
好きな	5.74	5.53	5.38
リラックスする	5.11	4.80	4.58
情に厚い	5.94	5.69	4.97
温かい	5.85	5.70	4.83
独立的	3.17	3.95	3.53
粘り強い	3.90	4.91	4.75
勤勉な	3.40	4.94	4.85
強い	4.15	5.02	4.32
複雑な	3.16	3.14	3.90
明るい	5.02	5.04	4.04
やわらかい	4.86	4.24	3.76
開放的	4.36	4.10	3.68
積極的	2.64	4.02	3.19
速い	3.23	3.53	3.47
理論的	2.77	3.02	3.54
新しい	3.24	3.34	3.44
協力的	5.31	4.89	4.65

——— 沖縄県出身者 (O)  
 - - - - - 鹿児島県出身者 (K)  
 - · - · - 宮城県出身者 (M)

図1でみられるような、第2因子におけるGo群とRo群の評定の違いは、沖縄県外者の本土において抱く沖縄県人に対するイメージと彼らが沖縄現地に居住した時に目に映ってくる現実の沖縄県人のタフネスとの間にずれがあることを物語っている。また、このことは、「勤勉さ」が日本人像の特性として最上位にあげられることと関連して、沖縄に住む人々ののんびり型の行動傾向は県外出身者にとってはとくに目につき易く、しかも消極的側面として受けとめられていることを示しているともいえよう。

二つ目の相異点としては、沖縄県出身者(Oo群)と県外出身者(Ro群、Go群を含む)の間のイメージのずれが鹿児島県人の場合と比べてより大きいことである。とりわけ、第1因子の親近性の面でのずれは著しい。図1と図3を比較すればその違いが一見してわかることであるが、ここで「沖縄県人」と「鹿児島県人」に対するそれぞれの各因子別3群(Oo, Ro, Go; Kk, Rk, Gk)間のずれ(D値)を求めて図示してみると図5のようになる。

図5 沖縄県人および鹿児島県人に対するイメージの因子毎のD値



鹿児島県人に対するD値は、第1因子において、Kk - Gk 間にやや高い傾向を示しているが、全般的にはそれ程大きなずれはみとられない。一方、沖縄県人に対するD値は、どの因子においても鹿児島県人に対する値よりも高く、とりわけ第1因子の親近性の面で Oo - Ro 間と Oo - Go 間のD値がかなり高い傾向を見せている。これは、Oo 群の方としては、沖縄県人に対して親近性や温情性の側面をかなり高く評価しているが、県外者 (Ro や Go) には Oo 群が抱いている程の「温かみや親しみのある」イメージはもたれていないことを示唆している。このことは、前にも指摘したように、Oo 群と Ro 群の群別因子の分析の結果 (表3, 表4) における第1因子の内容の差異とも関連していると言えよう。

#### 4 要 約

本研究では沖縄県人に対するイメージの特徴と構造を捉えるためにSD法によるイメージ調査結果が報告された。本調査は全国の大学1年生1028人を対象として8大学で実施された。SD法の調査結果は主因子解によって処理され、ヴァリマックス回転が施された。その結果を基にして、全国の被調査者や沖縄県出身者、沖縄県居住者等のグループ間比較をし、また、沖縄の類似県としての鹿児島県や宮城県の人々に対するイメージ調査結果との比較をも行ないながら分析が進められた。

本調査研究において得られた結果を要約すると主として次の通りになる。

- ① 沖縄県人に対するイメージの構成因子として、全体的 (Go) には、㊶親近性因子、㊷タフネス因子、㊸明朗性因子、㊹近代性因子等の4因子が抽出された。
- ② 沖縄県出身者群と沖縄県居住者群を対象とした群別の因子負荷量の算出の結果は、とりわけ、親近性と温情性に関する項目が、前者においては同一因子 (第1因子) を構成するものとして抽出され、また、後者においては親近性と温情性は相互に独立したものの (第1因子と第3因子) として抽出された。



- ③ 沖縄県人に対する 沖縄県出身者のイメージの特徴として、第1因子の親近性と第3因子の明朗性の面では他の県人よりも比較的高い評価を示し、逆に、第2因子のタフネスや第4因子の近代性の面では低い評価を示している。
- ④ 全国群や沖縄県出身者群、沖縄県居住者群の群間比較の結果は、とくに第1因子と第2因子における差異およびずれが顕著であることを示している。
- ⑤ 群間のずれは対鹿児島県人イメージの場合と較べて、対沖縄県人イメージの場合の方が大きい。そのずれはとくに第1因子において著しくなっている。

本研究結果に示されるように沖縄県人と他都府県人との間の認知的ずれはかなり大きい。このことは沖縄県が永年歴史的に隔絶された状況下において、沖縄県人と他都府県人との相互交流が極めて困難であったことの事実を考えると当然の結果として受けとめることができよう。

復帰後、年々急速な勢いで沖縄県人と他都府県人との交流が深められつつある。そのなかで、人々は相互にどのような有効な対応の仕方を獲得し、それを定着させていくのか、また、その過程で、本研究で見い出されたような相互間の認知的ずれがどのように変容していくのかは今後実証的に明らかにされるべき課題である。そのことに関しては、今後の詳細な時系列的な研究に委ねることにした。

付記：

本調査研究を進めるにあたって、琉球大学法文学部の東江平之教授と京都大学教養部の木下富雄助教授には多くの助言と示唆をいただきました。また、琉球大学はじめその他多くの大学の方々にも御協力を頂きました。深く感謝致します。

## 参 考 文 献

- ① 東江平之：「概念間距離とその変遷」 1971, 人文社会科学研究  
第9号, P115-136
- ② 新垣和子：1978「沖縄県人についてのイメージ」 沖縄心理学研究第1  
号, P9-12
- ③ 新垣和子：1978「県人間の社会的距離に関する研究」 日本心理学会大  
会第42回大会発表論文集, P1332-1333
- ④ 大山・池田・武藤共著：1971「心理測定・統計法」 有斐閣
- ⑤ 清水利信・斉藤耕二共著：1959「因子分析法」 日本文化科学社